

令和 6 年度 障がい者差別に関するアンケート調査結果について

(1)目的

本市における障がい者差別の状況及び障がい者差別、虐待の相談窓口の認知度を把握し、本市の相談窓口体制の整備や普及啓発等、障がい者差別解消を推進するための取り組みを検討すること目的に実施する。

(2)実施期間

令和 6 年 12 月 1 日～令和 7 年 2 月 28 日

(3)対象者

那覇市民(市外住民の回答可)

(4)実施方法

オンライン申請システムを利用

「アンケートにご協力ください」チラシ(QR コード入り)を次の方法で周知。

- ①なは市民の友12月号へ掲載
- ②那覇市公式ホームページへ掲載
- ③障がい福祉課窓口を設置
- ④市内福祉サービス提供事業所へメール
- ⑤全庁掲示板への掲載
- ⑥自立支援協議会－ワーキングにて案内

(5)アンケート項目

基本事項 3 問

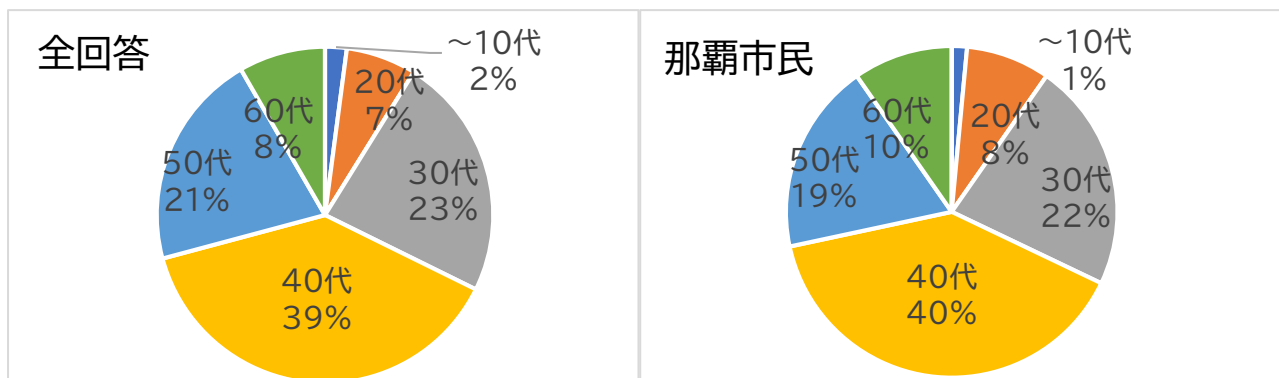
質問事項 15 問(うち 4 問は障がいがあると答えた方のみ、5 問は障がいがないと答えた方のみ)

(6)結果

全回答数 192 件(詳細は次頁より掲載)

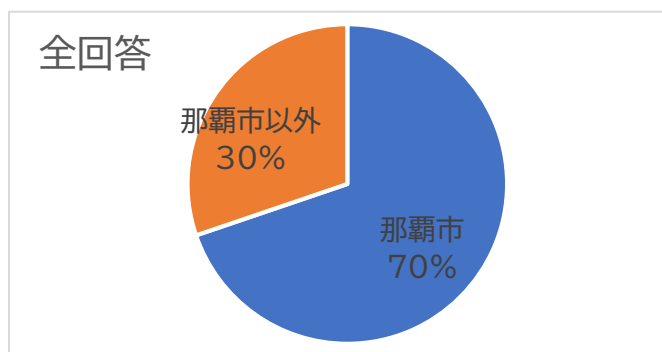
(1) あなたのことについて教えてください。

①年代



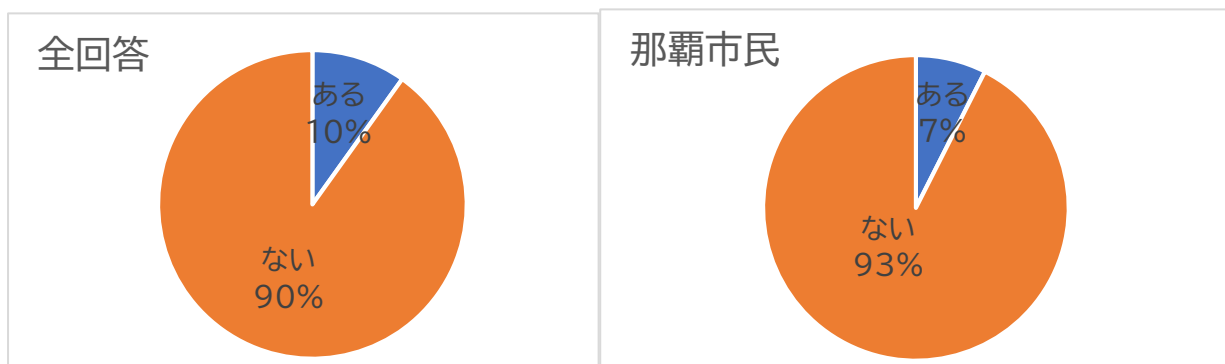
	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計
全回答	4	13	45	74	40	16	0	192
那覇市民	2	11	30	53	25	13	0	134

②住んでいるところ



	那覇市	那覇市以外	計
全回答	134	58	192

③障がいの有無



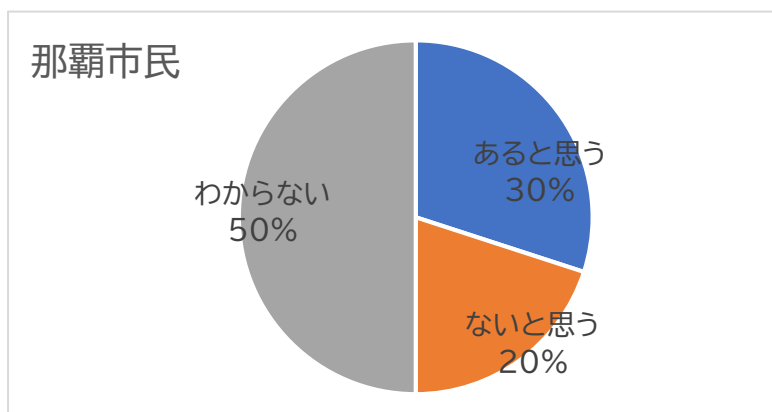
	ある	ない	計
全回答	19	173	192
那覇市民	10	124	134

「ある」と答えた方の障がいの種類

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他 心身の機能障がい
全回答	4	6	6	9	0
那覇市民	2	3	5	3	0

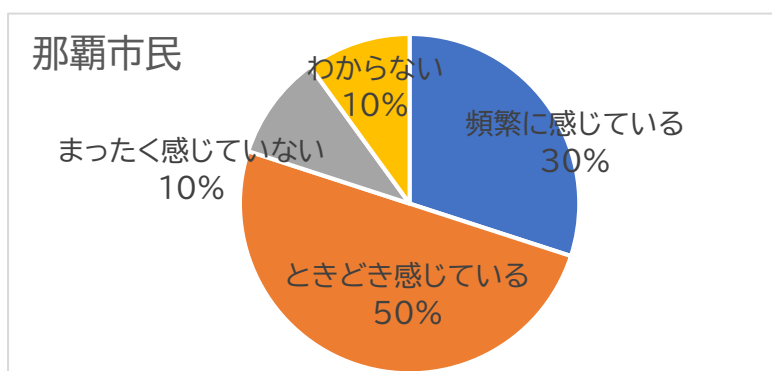
(2) (1)で障がいが「ある」と答えた方へ

① あなたがお住まいの地域は、障がいのある方に対する差別や偏見があると思いますか。



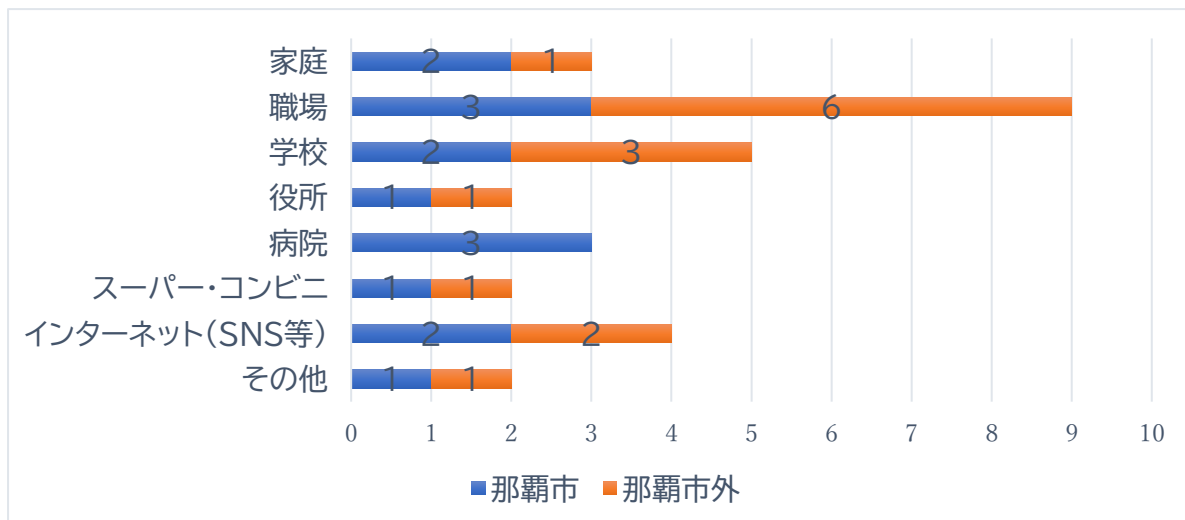
	あると思う	ないと思う	わからない	計
全回答	8	3	8	19
那覇市民	3	2	5	10

② これまで日常生活において、障がいを理由に差別や偏見を受けたと感じたことがありますか。



	頻繁に 感じている	ときどき 感じている	まったく 感じていない	わからない	計
全回答	3	13	1	2	19
那覇市民	3	5	1	1	10

③ 差別や偏見を感じた場所はどちらですか(複数選択可)。



	家庭	職場	学校	役所	病院	バス・タクシー ・モノレール	スーパー・ コンビニ	インターネット (SNS等)	その他
全回答	3	9	5	2	3	3	2	4	2
那覇市民	2	3	2	1	3	2	1	2	1

その他) 持病の治療を理由に住宅ローンが通らなかった、場所ではなくあらゆる場面

④ あなたが、差別や偏見を受けたと感じた場面について、具体的に教えてください。

○言っても意味がないので言いたくない。

○病気に対する偏見が多い。

○配慮とも考えられるが、対応が丁寧になりすぎるのもどうかと思う。

○ゆっくり歩いているときに、車やタクシーにクラクションを鳴らされる。

○発作を冗談と言われたことがある。

○医師から十分な説明や説得がなく、否定されたことがある。

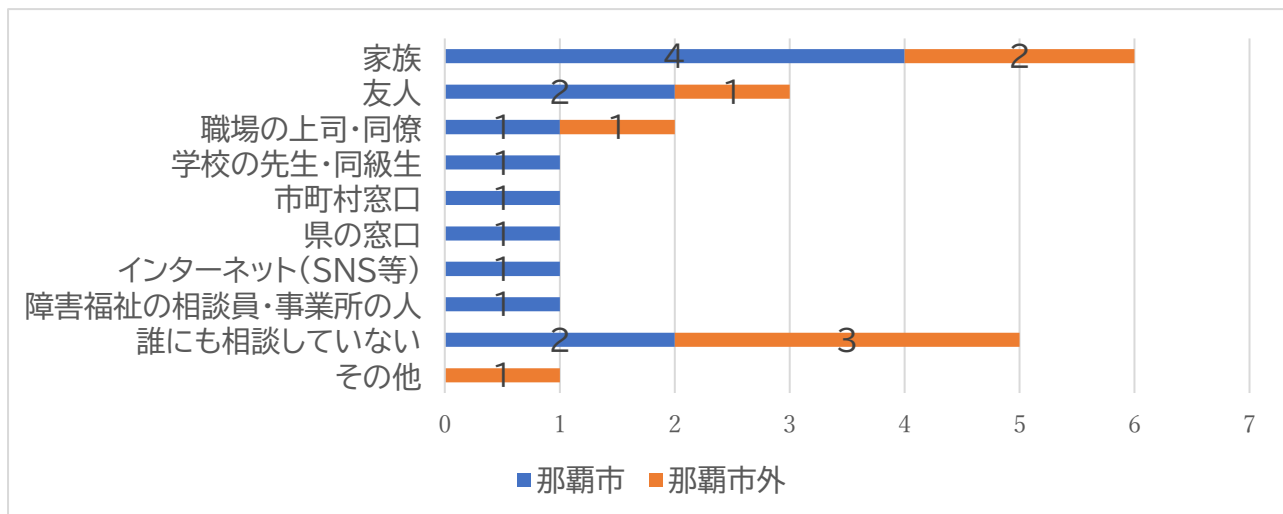
○上司に障がいがあることを伝えた際、組織であることを理由に、他の職員と共有すること強要された。

○自閉症であることを理由に、体験の利用を断られた。

○障がい理解が足りないと思う。

○集中力が切れること、またメモをし忘れることに対し、ため息をつかれることがある。努力しているのは理解してほしい。

⑤ 差別や偏見を受けたことについて、誰に相談しましたか(複数選択可)。



	家族	友人	職場の 上司 ・同僚	学校の先 生 ・同級生	市町村 窓口	県の 窓口	医療 機関	インター ネット (SNS 等)	障害福祉 の相談員・ 事業所の 人	誰にも相 談してい ない	その他
全回答	6	3	2	1	1	1	0	1	1	5	1
那覇市民	4	2	1	1	1	1	0	1	1	2	0

その他)会話ができない

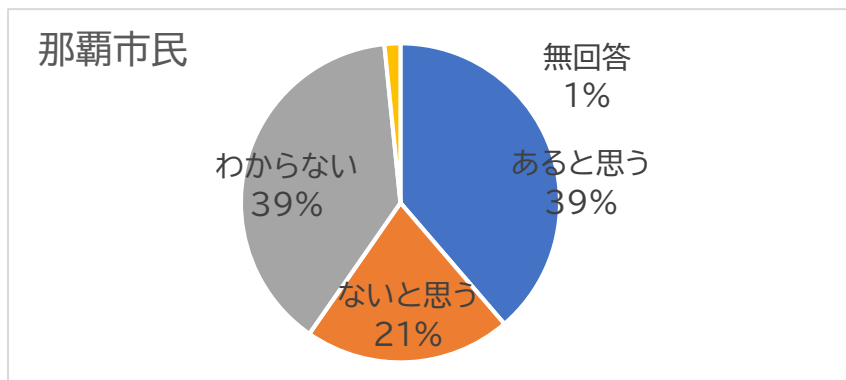
⑥ 誰にも相談していないを選んだ方はその理由を選んでください(複数選択可)。

【選択肢】	回答数	那覇市民
差別された(権利を侵害された)と認識していない	1	0
どこに相談するのかわからない	1	0
相談したいが言えない	1	0
同じことが何度もあるため慣れてしまい相談しようと思えない	2	0
我慢している	2	1
自分にも非があったため仕方がないと思う	0	0
わからない	1	0
その他	1	1

その他)自己解決

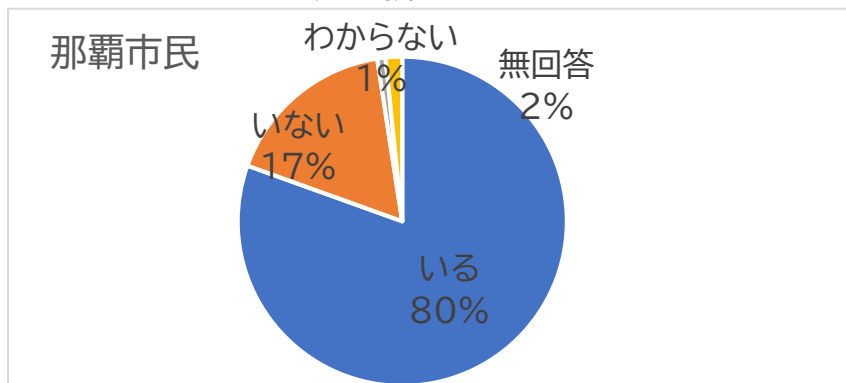
(3) (1)で障がいが「なし」と答えた方へ

① あなたがお住まいの地域は、障がいのある方に対する差別や偏見があると思いますか。



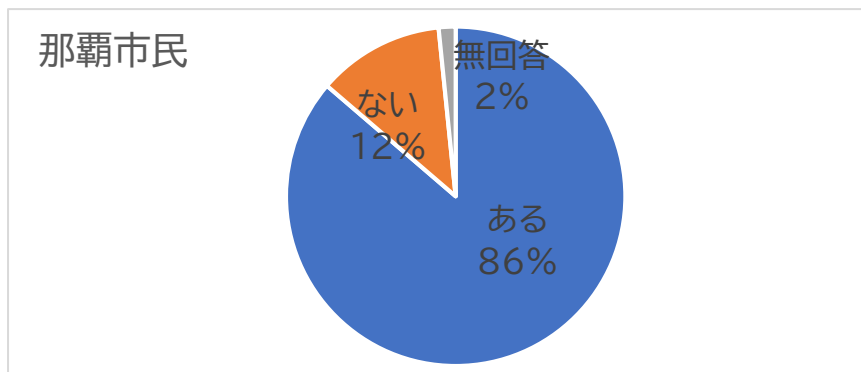
	あると思う	ないと思う	わからない	無回答	計
全回答	65	33	73	2	173
那覇市民	48	26	48	2	124

② あなたの身近(親族、近隣、学校、職場など)には障がいのある方がいますか。



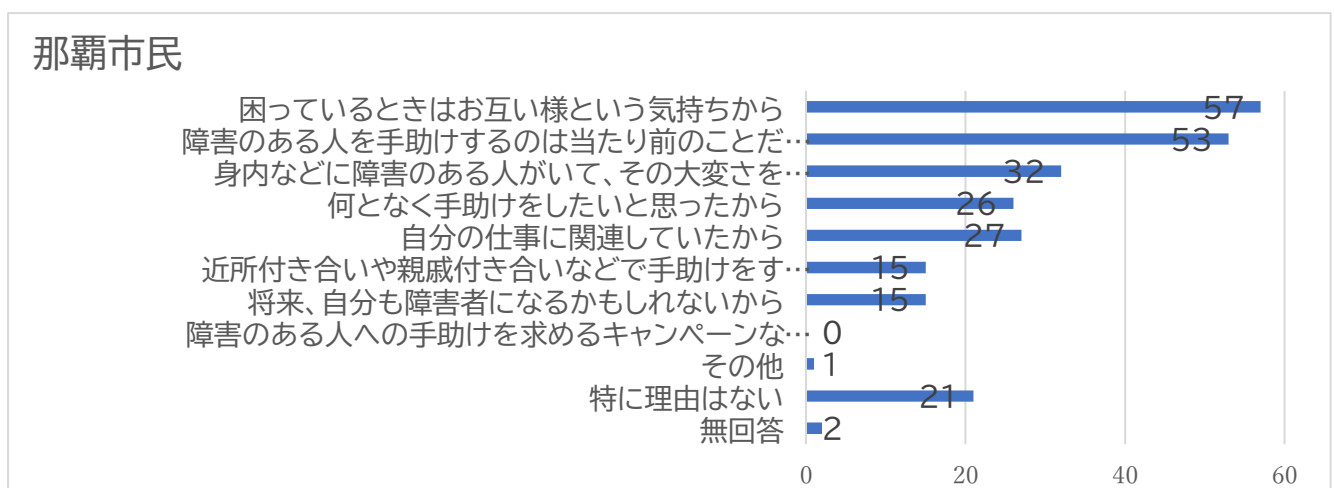
	いる	いない	わからない	無回答	計
全回答	137	31	2	2	173
那覇市民	99	21	1	2	124

③ あなたは、障がいのある方が困っているときに、手助けをしたことがありますか。



	ある	ない	無回答	計
全回答	154	17	2	173
那覇市民	107	15	2	124

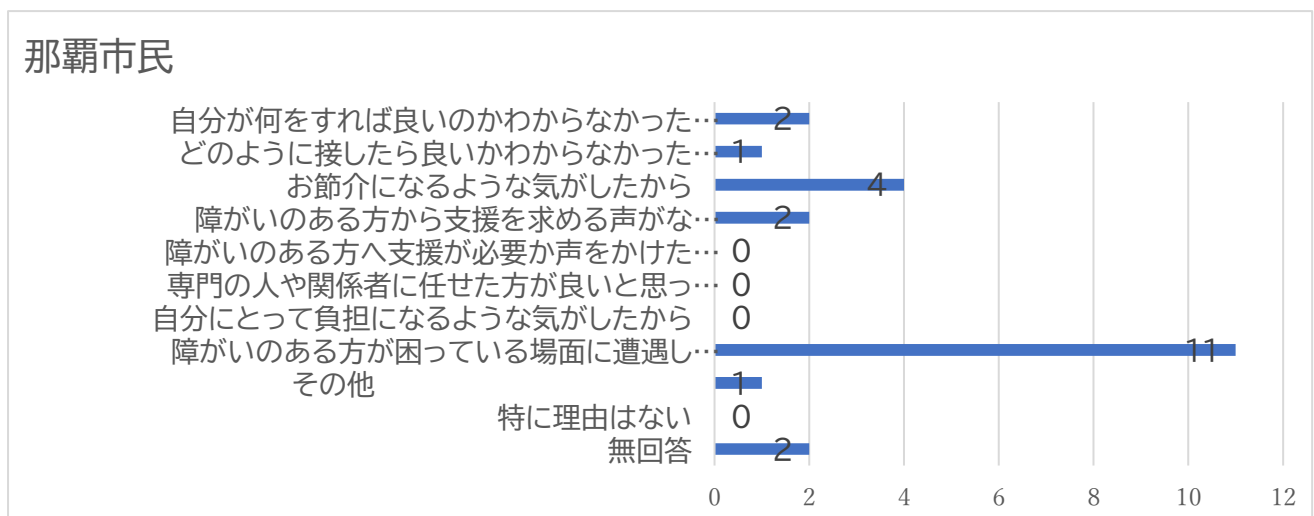
④ 手助けをした理由としてあてはまるものを選んでください(複数選択可)。



【選択肢】	回答数	那覇市民
困っているときはお互い様という気持ちから	88	57
障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから	78	53
身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから	50	32
何となく手助けをしたいと思ったから	40	26
自分の仕事に関連していたから	44	27
近所付き合いや親戚付き合いなどで手助けをするのが自然な環境であったから	19	15
将来、自分も障害者になるかもしれないから	23	15
障害のある人への手助けを求めるキャンペーンなどを見たから	0	0
その他	1	1
特に理由はない	25	21
無回答	2	2

その他) 手助けした人にたまたま障がいがあった

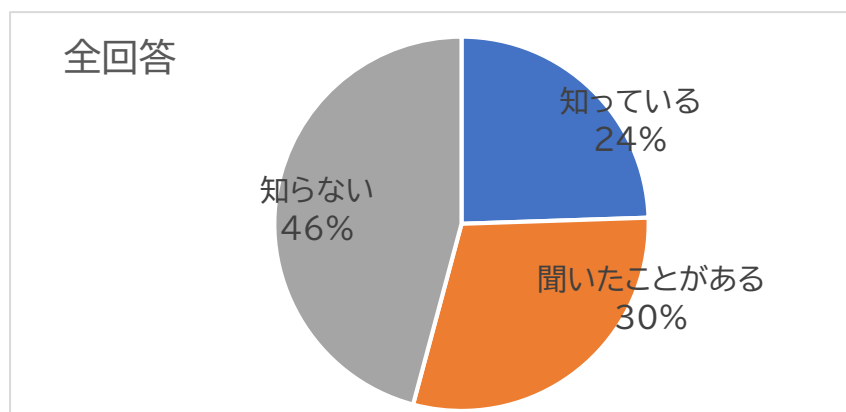
⑤ 手助けをしたことがない理由としてあてはまるものを選んでください(複数選択可)。



【選択肢】	回答数	那覇市民
自分が何をすれば良いのかわからなかったから	2	2
どのように接したら良いかわからなかったから	1	1
お節介になるような気がしたから	4	4
障がいのある方から支援を求める声がなかったから	2	2
障がいのある方へ支援が必要か声をかけたが断られたから	0	0
専門の人や関係者に任せた方が良かったから	0	0
自分にとって負担になるような気がしたから	0	0
障がいのある方が困っている場面に遭遇したことがないから	13	11
その他	1	1
特に理由はない	0	0
無回答	2	2

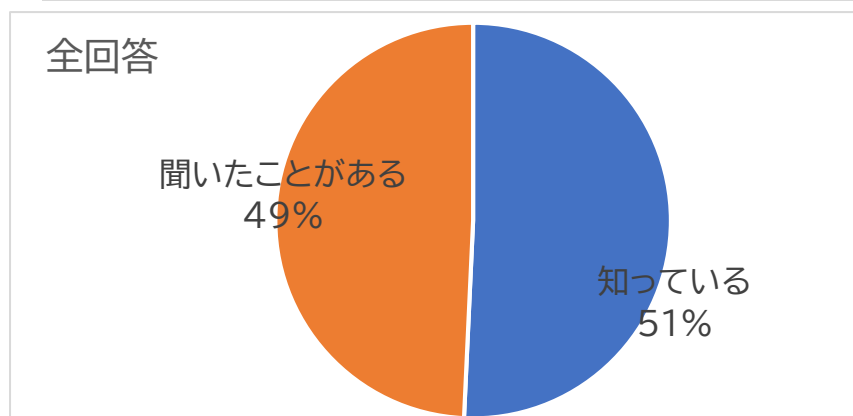
その他) 助けが必要な場面に出くわしたことがない

(4) 沖縄県は、平成 26 年 4 月に「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例(平成 26 年 4 月)」を施行しましたが、あなたはこの条例を知っていますか。



	知っている	聞いたことがある	知らない	計
全回答	47	57	88	192
那覇市民/障害あり	4	4	2	10
那覇市民/障害なし	27	39	58	124

(5) 国は、平成 28 年 4 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」を施行しましたが、あなたはこの法律を知っていますか？



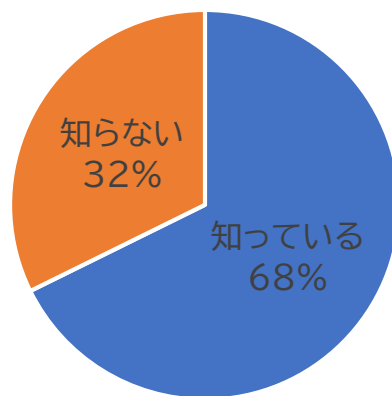
	知っている	聞いたことがある	知らない	計
全回答	69	67	56	192
那覇市民/障害あり	3	5	2	10
那覇市民/障害なし	45	46	33	124

※障害者差別解消法の目的とは？※

我が国では、障がいのある方もない方も、互いにその人らしさを認め合いながら、共に生きる社会(共生社会)を実現することを目指しています。「障害者差別解消法」では、障がいを理由とする「不当な差別的取扱い」を禁止し、障がいのある人から申し出があった場合に「合理的配慮の提供」を求めることなどを通じて「共生社会」を実現しようとしています。

(6)あなたは、「合理的配慮の提供」という考え方について知っていますか。

全回答



	知っている	知らない	計
全回答	130	62	192
那覇市民/障害あり	5	5	10
那覇市民/障害なし	85	39	124

※合理的配慮の提供とは？※

行政機関や事業者は、障がいのある方から、社会の中にあるバリア(障壁)を取りのぞくために何らかの対応を求められたとき、負担が重すぎない範囲で、合理的な対応をとることです。合理的な対応をとるために、障がいのある方と行政機関、事業者等が話し合い、ともに対応策を検討します。

例)レストランなどで、店内のテーブルやいすの配置を変更し、通路を広くするなど、過度な負担にならない範囲で、車いすを利用している人でも入店できるようにする。

例)研修会などで、障がいのある人の障がいの特性に応じて、座席を決める。

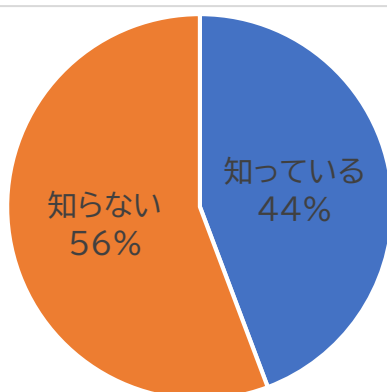
例)障がいのある人の特性に応じて、ゆっくりはっきり話したり、コミュニケーションボードなどを用いたりして意思疎通をはかる。 など

※もっと知りたいという方は、「障害者差別解消に関する事例データベース(内閣府)」をご覧ください。

<https://jireidb.shougaisha-sabetukaishou.go.jp/>

(7) あなたは、障害者差別解消法が改正され、今年 4 月に施行されたことを知っていますか。

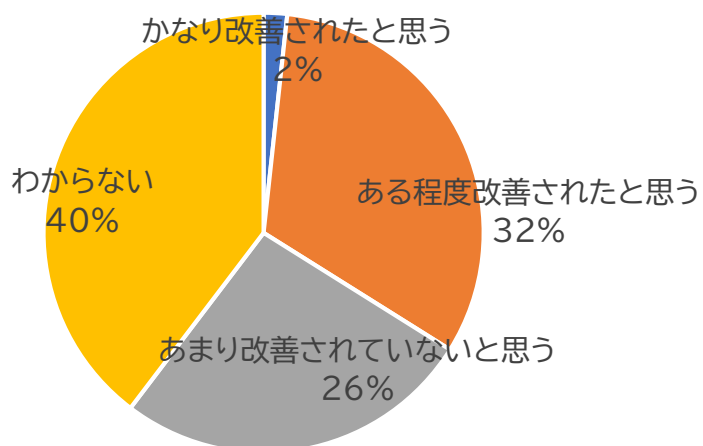
全回答



	知っている	知らない	計
全回答	85	107	192
那覇市民/障害あり	3	7	10
那覇市民/障害なし	56	68	124

(8) 法律が改正されて以降、障がいのある方に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。

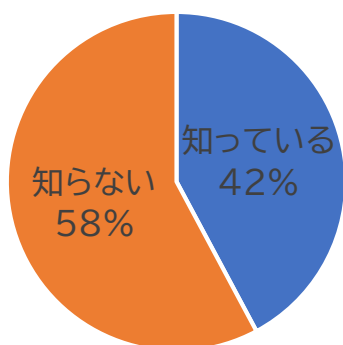
全回答



	かなり改善されたと思う	ある程度改善されたと思う	あまり改善されていないと思う	ほとんど改善されていないと思う	わからない	計
全回答	3	56	46	18	69	192
那覇市民/障害あり	0	2	3	5	0	10
那覇市民/障害なし	1	36	26	10	51	124

(9) 那覇市障がい福祉課では、障がいがあることを理由とした差別に関する相談を受け付けています。あなたはそのことを知っていましたか。

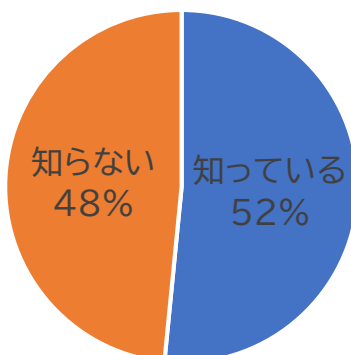
全回答



	知っている	知らない	計
全回答	81	111	192
那覇市民/障害あり	3	7	10
那覇市民/障害なし	54	70	124

(10) 那覇市障がい福祉課(那覇市障がい者虐待防止センター)では、障がい者に対する虐待に関する相談や通報を受け付けています。あなたはそのことを知っていましたか。

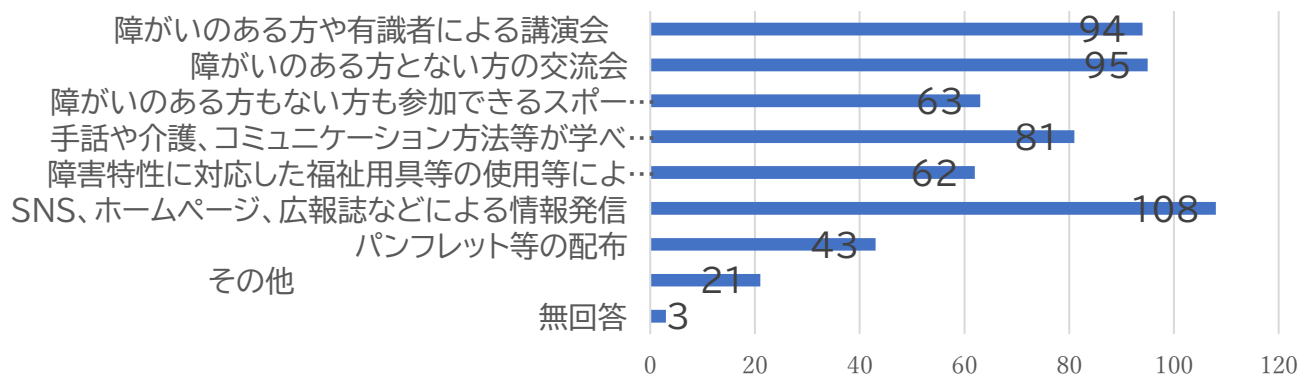
全回答



	知っている	知らない	計
全回答	99	93	192
那覇市民/障害あり	2	8	10
那覇市民/障害なし	68	56	124

(11) あなたは、差別や偏見のない社会を実現するために、どのような取り組みが必要だと思いますか(複数選択可)。

全回答



【選択肢】	回答数	那覇市民 /障害あり	那覇市民 /障害なし
障がいのある方や有識者による講演会	94	2	67
障がいのある方とない方の交流会 (障害福祉サービス事業所への訪問等)	95	4	63
障がいのある方もない方も参加できるスポーツ大会	63	2	44
手話や介護、コミュニケーション方法等が学べる教室や研修会	81	2	55
障害特性に対応した福祉用具等の使用等による体験会	62	2	41
SNS、ホームページ、広報誌などによる情報発信	108	7	67
パンフレット等の配布	43	4	27
その他	21	2	11
無回答	3	0	1

その他) ※回答の公表につきましては事前承諾を得ていないため、みなさまからいただいたご意見を一部編集しご紹介しております。

- ・インクルーシブ教育の推進
- ・みんな違ってて良いという教育
- ・障がい特性に応じた関わり方を学ぶ機会の提供
- ・一人一人が自分の立場や置かれている状況に振り返る、見つめなおすことが必要
- ・当事者になってみないとその圧倒的不自由さ、困難さ生きづらさはわからない

(12) その他、ご意見、ご感想などございましたら、ご自由にご記入ください。

※回答の公表につきましては事前承諾を得ていないため、みなさまからいただいたご意見を一部編集しご紹介しております。

【障害の理解】

○視覚障がいのある方を道案内したときに、本人がしきりに誤っていた。過去に障がいを疑われたり、辛辣

な言葉をかけられた過去があるとのことだった。理解が進むといいなと思った。

○見た目でわからない障害の認知もすすめてほしい。

○外見で判断できない障がい者は誤解を受けやすい。ハートプラスマークやヘルプマークを一般にも認知してほしい。

【対応方法】

○どのようなときに、どのように、どの範囲まで、声かけや支援をしたらよいか分からない。

○「障がいについて知ること」が優先。知らないからどうしていいかわからないが大多数なのかなと思う。

【講演会(研修)】

○職場の上司が障がい者家族に対し、施設の利用を拒むような発言をしているのは目の当たりにして驚いたことがある。指摘すると、当然の対応とでもいうような対応だった。

○東ちずるさんプロデュースの「まぜこぜ一座殺人事件」という映画は、どんな障がい者がいるのか、障がい者たちの特性などを楽しく学べて考えさせてくれる内容だった。

○障がい者にクローズアップした企画を政府が支援・宣伝はもちろん、学校や企業に任意でなく参加してもらう工夫ができると良い。

【制度・サービス】

○相談しやすい環境を作してほしい。

○娘に発達障害があるが、受給者証を使って発達支援サービスを受けており、大変助かっている。早期に取り組めたことで状態もかなり良くなってきていると思う。

○障害者に寄り添えていない。障害者が利用できる施設が圧倒的に足りない。

○特に妊娠や子育てについて、障害者が利用できる行政サービスを知りたい。

【教育】

○卒業したら急に『障がい者』のレッテルが貼られ、理解してくれない周囲の人に囲まれながらうまくいかず、引きこもりや精神的な落ち込みに苛まれる子どももいると思う。いろんな人がいて、いろんな考えがあるのが当たり前な社会を作してほしい。

○支援学校や支援学級と分けるのではなく、「支援が必要、必要でない子供たちも一緒にいられる環境」を作れるとより良い感覚も育まれると思う。

○研修会や交流会では差別は解消できません 小さい頃から一緒に過ごすことでしか偏見は解消できないと思う。インクルーシブ教育をどれだけ推し進めれるかだと思う。

○障がい者と関わる事を増やす事で、新たな視点に気付くことができるのではないかなと思う。それは、大人より子どもの頃からの関わりが最も重要かつ貴重ではないかなと思う。

○差別は、人間性や周りの同調圧力で生まれるので、非常に難しい問題だと思う。小中高生向けの学校を介して行う交流会の開催を行い、若いうちからの認識と理解を得るような取り組みをしていくことが大事だと思う。

【雇用】

○那覇市でも障害者雇用についてもっと積極的に行うべきだと思う。配慮の仕方がわからないので、学ぶためにも必要だと思う。

【その他】

○「障がい者」の名称を変更してほしい。

○障害児の家族です。将来の仕事や生活に向けて、何か気持ちが明るくなれるような取組みをしてほしい。
○メディアや SNS 上に当たり前のように障害特性を持った方が出演してもらうことで、差別や偏見の解消につながると思う。

○当事者の意見、現場の意見を聞いてほしい。

○障害があるなしに関わらず地域で理解を得ながら暮らす事は理想だが、そのための整備はまだまだのよう気がする。

○障害がある人が利用できるスポーツジムなどがもっと増えれば良い。障害がない人がいると利用しづらさがある。